

令和8年4月1日の経営統合で広がる

市立総合病院の 新たな診療機能

市立総合病院と北海道中央労災病院は、安定した経営基盤の下で持続的に地域医療を提供していくため、令和8年4月1日に両病院を統合します。統合後、市立総合病院では北海道中央労災病院にしかない診療機能を引き継ぐとともに、病棟の再編を行います。

今月は、新たな診療機能の一部をお知らせします。
問合先 市立総合病院管理課（9西7） ☎ 22-1650



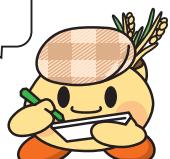
できることを増やし、暮らしを取りもどすリハビリテーション、 回復期リハビリテーション病棟を設置します

『回復期リハビリテーション病棟』は脳血管疾患や大腿骨頸部骨折などの急性期治療を終え、病状が安定した患者が、在宅生活や社会復帰を目指して集中的にリハビリを行う病棟です。

医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士などの多職種チームが、専門的なリハビリを行います。併せて食事や着替え、排せつなどの日常生活動作（ADL）もリハビリの一環として24時間体制でサポートし、寝たきりを防いで低下したさまざまな機能や能力の回復を目指し、退院後も安心した生活ができるよう支援します。

回復期リハビリテーション病棟	
場所	新棟4階
対象	主に脳神経外科領域と整形外科領域
病床	38床

入院日数上限は疾病により異なり、最長で60日から180日となります



心臓と、安心して暮らすためのリハビリテーション、 心不全・心臓リハビリテーション室を設置します

『心不全・心臓リハビリテーション』とは、心臓の病気を経験した方が、安心して自分らしい生活を取り戻すための大変な医療プログラムです。多職種チームが適切な運動療法や栄養指導、生活習慣改善の指導などを行いながら、症状の軽減や体力の回復、再発予防を目指し、不安の軽減や生活の質（QOL）の向上につながるよう支援します。心臓に負担をかけすぎないように、専門医の指導のもとでウォーキングなどの有酸素運動や筋力トレーニングを無理のない範囲で継続することが大切であり、心臓の機能改善、精神面の安定、危険因子（高血圧、糖尿病など）の管理にもつながります。

心不全・心臓リハビリテーション室	
場所	本館2階
機能	トレッドミル、エルゴメーターなど



経営統合や新病院建設に関する情報は、市立総合病院ホームページ、または北海道中央労災病院ホームページをご覧ください。



市立総合病院 労災病院

